民報 あばしり
NO.1402
2月12日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四四三－四四五八
FAX 四四三－四四五七

憲法25条…すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

第1回臨時会
電気代高騰などに1億300万の補正
市道潮見鱒浦線は2023年完成予定

網走市議会第1回臨時会が、2月2日に開かれました。議案は、一般会計補正予算と下水道事業会計補正予算などです。

補正額は、9億7899万で補正後の予算額は、282億6906万となります。補正予算の内、原油高騰と電気料金が1億300万円、電気代は8700万円、当初予算比30％の増となりました。

主な事業は、国の補正予算を活用して歩道の整備や橋梁の長寿命化で2億4200万円、港湾整備の負担金で4950万円、1戸建て市営住宅5戸建設費1億6400万円、市営住宅の取り壊しで8500万円などです。ほとんどの事業が、翌年度に繰越されます。

また、北海道知事あての「油流出事故に係る対応を求める」意見書が全会一致で可決されました。

映画「百年と希望」

2月5日、エコーセンターで日本共産党のドキュメンタリー映画「百年と希望」が上映され、75人の方が鑑賞しました。

2021年の東京都議選、衆議院選の日本共産党の姿が映し出されていました。

感想が寄せられたのでご紹介します。

高校生や大学生、20代の社会人、若い世代の人達が、違うと思うことに対して間違っていると言えていて、世の中捨てたもんじゃないな。
（30代女性）

仁藤ゆめのさんを数年前から注目。彼女の言うことは、もっともです。
網走も女性や子どもを大事にする政治に、早く切り替えて欲しいです。
（50代女性）

これでいいの？大軍拡！
23年軍事費予算　6兆8219億円
（1・4兆円の大増額）

とんでもない大軍拡となっていますが、実はこれだけではありません。アメリカ（軍需産業）の言い値で買う兵器を、後で支払う（軍事ローン）予算が別にあるのです。

新規後年度負担　7兆6049億円
（ローン残高も入れると10兆円超）

詳しい報道がされないので、ほとんどの国民が「知らない」うちにこんなことが進んでいるのです。自民、公明、立民、国民、維新などは、財源ばかり問題にしていますが、日本共産党は大軍拡そのものに反対しています。

総理さま　奮戦メモ！

浜田靖一防衛大臣は6日の衆議院予算委員会で、日本が武力攻撃を受けていないもとで集団的自衛権の行使として敵基地攻撃を行い、相手国から報復攻撃を受けた場合、「日本に大規模な被害が生じる可能性も完全に否定できない」と認めました。

昨年末に閣議決定された安保3文書は、日本が直接攻撃を受けていないのに、米国が始めた戦争を「存立危機事態」と認定し、集団的自衛権の行使として敵基地攻撃を行う考えを明記しています。浜田防衛大臣の答弁からも、「まさに全面戦争で国土が焦土・廃墟と化する」もので「新しい戦前がはじまっている」と実感しています。

日本共産党は結党以来、戦争反対を掲げてきた政党ですから、岸田政権の大軍拡政治を許しません。春の統一地方選挙で日本共産党の躍進で岸田政権を退陣に追い込みましょう。

村ちゃんが駆ける

10年以上も前、冬の道路の下水マンホール部に段差ができて走りづらく、下水道課ではその問題を解決するために市内の会社に意見をきき、蓋の裏側に断熱材を付けて解決することができました。

コロナ禍と急激な物価高騰で中小企業は崖っぷちに追い込まれています。政府の中小企業対策費は年間1700億円足らずです。大型公共事業に金をかけ、維持するための補助事業はないに等しい状況です。網走では今年で建設業をやめる会社が何社かあると聞きました。収入減で雇用を守るのが精一杯、人材を育てる余裕がなく、事業を続けていけないといいます。このままでは市内の様々な会社が減って、地域を支える会社がなくなれば、網走に住めなくなってしまいます。

網走市が地域社会をどう維持していこうとしているのか。会社の意見をもっともっと聞くことが、市に、議員に、求められていると思います。

流氷

息子が成人式を迎えました。式の前夜は、新しいワイシャツとネクタイで、スーツを着る練習でした。息子が選んだネクタイは赤地に黄色のラインで、私にとっては意外な選択でしたが、とてもよく似合っていました。私の背丈をずいぶん追い越した彼は、とてもりっぱに見えました。▼そのとき、米津玄師さんの『灰色と青』という曲の「どれだけ背丈が変わろうとも、変わらない何かがありますよに」という歌詞を思い出しました。小さいときから「変わらない何か」を、そのスーツ姿に探してみました。▼給食のあさりの貝を、ポケットに入れて持って帰り「きれいだっだから」と言ったこと、ちっとも練習しないバイオリンを「やめたら」と言うわたしに、涙がこぼれそうな目をギラギラさせて「いやだ、やる」とさけんだこと、勢いよくこいだ自転車をわたしの横でキュッと止めて「ただいま」と言ったこと。▼彼が、今もあまり変わって、いないことが嬉しい夜でした。

かーこ